

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2020年度達成度評価表 分野:研究

		評価	理由
中期目標	多様で優れた学術研究を奨励し、その成果を広く社会に還元するとともに、地域と連携した特色ある研究の拠点形成を推進します。		
中期計画	1 研究環境の整備充実	B	研究費の適正使用を遵守する検収体制の強化においては、「競争的資金等執行ハンドブック」作成や公的研究費の使用についての研修・説明会動画を配信するなど、適正な予算の執行を周知している。研究活動においては、学内無線LANアクセスの拡充、LMSの積極導入・活用による学内外における新たな研究ネットワーク構築ができつつあり、研究環境の効率化・高速化が図られつつある。また、研究設備等の整備に関する中長期計画を立て、それに基づき事業を進める枠組みを構築できたことは評価できる。今後は、その仕組みの構築と適切な運用に取り組むことを期待する。インターネット回線の高速化を、補助金の獲得により実現できたことは評価できる。引き続きさらなる研究環境の整備がなされることを期待する。
	2 多様な外部資金の獲得	B	科研費等競争的資金や寄付や企業との共同研究による外部資金の獲得については、研究支援センターが中心となって支援を行っているものの、申請率等に向上の余地がある。採択率向上のために、オンライン形式で「若手研究者」かつ申請予定者対象のワークショップを開催し、科研費制度の概要、変更点の説明や、出席者間で相互に質疑を交わしつつ意見交換等を行うなど、コロナ禍においても外部資金獲得に向けた取り組みを行っていることは評価できる。多様な外部資金獲得のため、大型研究助成金申請を研究者に紹介し、共同研究における学部横断的なプロジェクトが組めるようマッチングする等、積極的に取り組んで成果をあげることができている。
	3 学内・学外との研究連携促進	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面による研究連携が中止となったものの、代替として遠隔型フォーラムやオンデマンド講座の開催、展示会への出展等を通して、本学教員の研究成果をPRする活動を行う等の取り組みを継続したことは評価できる。オンラインでカバーできない部分、例えば提携校との間の学生・教員の派遣及び受け入れが困難であったことは、達成度を押し下げた要因の一つと考えられる。情報共有が継続されるよう工夫することを期待し、共同研究や知的財産の活用に結びつくよう継続した研究連携を期待する。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る